

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1 参加者 L 大川、西、宮島

以上 3 名

2 山城・ルート 八ヶ岳/石尊稜

3 交通手段 車

4 行動記録

2/10(土)八ヶ岳山荘仮眠室 5:00 起床-美濃戸口発 6:11-美濃戸山荘 6:53-行者小屋 8:59 着(テント設営)-9:48 発-石尊稜取りつき 11:15-稜線 17:30-地蔵の頭 19:15-行者小屋 21:17 着-24:00 就寝

2/11(日)77:00 起床-9:00 行者小屋発-10:46 美濃戸山荘-美濃戸口 11:43 着

石尊稜：1p 目（下部岸壁）L 大川- 2p 西- 3p 大川- 4p 宮島- 5p 大川-6p 宮島- 7p 大川- コンテ- 8p 大川-9p (上部岸壁)大川-コンテ-稜線

稜線上はコンテで進む。地蔵尾根途中で道が分からなくなる地点でコンテを解く。

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a 山行は予定の内容・日程で行動出来たか

計画では 16:00 には行者小屋に戻る予定だったが、行者小屋に戻ったのは 21:17 と大幅に遅れた。

遅れの原因

1) 取りつき到着が予定よりも 1 時間以上遅れた。行者小屋到着の時点で 30 分の遅れ。テント設営をせずに出発するという手段もあったが、結果的にはテント設営しておいたおかげで、夜中に吹雪の中での困難なテント設営をすることがなく、設営しておいて正解だった。

2) 登攀で 1p 目は 3 人を 2 本のザイルで登るシステムで行ったが、2p 目からはザイル操作を簡単にするために、ザイル 1 本で 2 人目はアッセンダーで登り、3 人目のみ引き上げるシステムにした。しかし、このシステムでは 2 人目と 3 人目は同時に登れないため、それだけで 1.5 倍の時間がかかった。

3) 登攀でもっと迅速に登る。またシステムの構築ももっと素早くする必要がある。

4) 途中は優しいので、もっとコンテを多用しても良かった。といっても結果論か。

5) 登攀の途中の 15:00 頃から強風、さらには吹雪になった。まさに天気予報どおり。稜線に出てからは簡単に 2 時間で下山する予定だったが、4 時間かかった。暗くなりさらに吹雪でトレースが消えていたために、3 回ほど道迷いしたことも原因の一つ。たかが一般道の下山と高をくくっていたが、困難だった。

まとめると、午後から悪天予報の中で登りに行き、登攀が遅くなったことが重なって、下山では夜の吹雪につかまって、トレースがなくなることで道迷いし、ますます時間がか

かったという、典型的な悪条件が重なるパターン。

b 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか 発生した場合は具体的に記す

大幅な下山遅れ。石尊稜登攀に時間がかかり、稜線上で暗くなり、さらに予報通りに吹雪となり、稜線の踏み跡がかき消され、稜線上で2回、地蔵尾根上で1回道が分からなくなり、下山にもかなり時間を要した。

C その他、ルートに関する情報・気がついた事等

寒かったため Garmin は電池切れを起こしてしまった。一方でスマホのジオグラフィカのほうで電池が持ち有効だった。

たかが稜線の下山と思っていたが、夜の吹雪の中では道が分からなくなり大変だった。

写真等はヤマレコ、instagram 参照

報告者氏名 宮島

平成30年2月12日

<感想等>

当初はこの2月の三連休で槍ヶ岳に行く予定にしており、その計画で12月からトレーニングをしてきた。しかし昨年と逆に今年は雪が多く、一週間前には福井で大雪があり市街地でも自動車が1500台も立往生する事態になっており、直前の天気予報でも土曜日の夜からは強風、低温であり、とても槍ヶ岳に行けるような天気ではなく、八ヶ岳に転戦した。石尊稜は4年前に大川さんが一度登っているルートであるということだったが、自分自身アイゼン登攀のトレーニングは一週間前の妙号岩、菊水ルンゼくらいであり、そのときの出来からアイゼンによる岩稜登攀にはあまり自信がなかった。天気予報では夕方から強風になるということは分かっていたが、一般道の下山であれば楽勝であり、まさか道迷いまでするとは思わなかった。

八ヶ岳山荘の仮眠室は快適であり、熟睡はできなかったものの2時間半ほど寝れていつもよりも初日の歩きは楽であった。2000円でこれは有効だと思う。順調に歩いたものの石尊稜取りつきには計画よりも1時間以上遅くなってしまった。もっとも取りつきには先行Pとして大阪のS山岳会の方がいたので、この時点ではそこまで遅くなっていたわけではない。

1p目（下部岸壁）L大川：S山岳会の方が左側を登っていたため、当方は右側のビレイ点から登る。今回自分は初めてダブルバイルで登ってみたが、バイルの重心の掛け方やひっかけ方がうまくなくて登攀に時間がかかってしまった。フォローだがだいぶ難しく感じた。終了点は右側の岩にスリングをひっかけてだけ。このピッチだけ、3人で2つのロープで登る通常のシステムにした。

2p目L西：ザイル操作の煩雑さを避けるために、このピッチからロープ1本でセカンドがアッセンダーで登るシステムにしたが、これが時間のかかる大きな要因の一つだったように思う。2人目、3人目は同時に登れないのが痛い。左から岩稜を回り込むだけで問題なし。

3p 目 L 大川：ただの雪稜

4p 目 L 宮島：岩稜（大ピナクルと呼ぶらしい）を左右のどちらから回り込むか迷った。当初は左のほうが木も多く楽かと思っただが、右のほうが踏み跡が多いような気がしたので、右へ。そこまで難しくはないが、Ⅲ級くらいで少し登攀要素があった。ネットの詳細な記録が書いてあるところでは左のほうが簡単で正解だった。

5p 目 L 大川：左から回り込むような雪稜

6p 目 L 宮島：左から回り込み、すぐに雪稜。簡単。50m いっぱいにのぼしてしまい、支点が取れなくなったので、少しバックステップで戻ると稜線の雪の中に木があり、掘り出して支点とする。6p 目後半と 7p 目前半は簡単な雪稜なので、コンテでも良かった。4p 目で残置スリングを無視して伸ばし目で行ったために、少しピッチがずれていて、本来のピレイ点が中間支点になっている感じ。

7p 目 L 大川：最初は雪稜で簡単。後半も少し斜度があるが簡単。

7～8p の間：宮島が L で行くが、すぐに簡単な雪稜だったため、コンテに変更。意思疎通がうまくとれておらず、少しもたつく。

8p 目 L 大川：6p 目から風が出てきて、ここでは吹雪になってきた。岩稜を左から回り込む。怖いのでリードをお願いした。

9p 目 L 大川：最後ピッチの上部岸壁。怖いのでリードをお願いする。出だしと途中の岩の乗越が思ったよりも難しかった。1p 目はペツルの中間支点がたくさんあったが、こちらはない。終了点もないので、岩角にスリング。

ここからは左の小ピナクル方面へ登り、回り込むとルンゼでコンテで稜線へ。全体的に稜線は左側を回り込むことが多く右はない。

稜線に到着して、西さんにおめでとう！と言われたが、もうすぐ暗くなる時間で、風もかなり強くなってきた。地蔵尾根の分岐に出るまでは少なくとも安心できない。コンテで稜線を進むもすぐに暗くなってしまった。しかも吹雪でトレースが分からなくなってしまった。よく見るとうっすらと見えていたり、鎖が出ていたりしたが、地蔵尾根にでるまでに2回も道迷いしてしまい、偵察に出たり、戻ったりして時間を食ってしまった。たよりのGPSもそこまで細かくルートが載ってるわけではない。大川さんを先頭にするサクサクと進んでしまい、ザイルが50m いっぱいに伸びてしまう。（大川さんは後ろをみないで進む、西さんは遅れる、宮島はザイルさばきでイライラする。）そのたびに伸ばしたり、束ねたりを繰り返さなくてはならなくて大変面倒。そもそもコンテのザイルさばきがいまいちよく分からない。それで岩角にひっかかったりとかしてさらにイライラする。2時間かかってようやく地蔵尾根の分岐。正直ここまで時間がかかるとは思わなかった。

地蔵尾根からも大変だった。吹雪は西から吹いているために、顔面にもろに当たる。8p 目まではサングラスをしていたが、吹雪で見えなくなるので取ってしまっていた。ゴーグルをする時間と余裕もなかったため、ここでは全員まっげに氷を作っていた。吹雪はトレースをほとんど消していたが、よく見るとわずかに跡が見えることが多く、鎖も見えるところも多くなるとか降る。2600m 地点のはしごを降りたところで完全にトレースがなくなっていたこともあり、GPS 確認と小休止。コンテはここではずす。右は崖だったので、左の斜面を下ると樹林帯に入り、トレース跡、はしごが出てきた。はしごは完全に埋まっ

ているのでバックステップで降りる。ようやく安心でき、サクサクと降りると行者小屋に到着した。10月にも米子沢で大幅な時間遅れをしたが、今回もしてしまった。もっと迅速に行動しなければならない。登攀ももっと頑張らねばならない。反省点が多い山行になった。

宮島

反省の多い山行となった。

体力不足とこの冬の雪山体験不足が大きかった。

行者小屋のテント場に着くまでに遅れた。荷物が軽くなればもっと早く歩けるか・・・とも思ったが、荷物をデポしての石尊綾取り付きまでも2人に遅れた。取り付きで大川さんに「登るか、やめるか」の判断を聞かれ「今回は無理かな・・・」とも思ったが、結局登る判断をした。

●登攀での改善点は、下記の点。

- ①ギアラックを持ってこなかったため、ギアの取り外しがしづらかった。
- ②厚手の手袋+オーバー手袋としたが、下に薄手のグローブをすべきだった。細かな操作をするときに、素手となってしまった。
- ③オーバー手袋がカラビナに挟まってしまった。操作の改善+オーバー手袋をどうするか検討。
- ④声が届かず、ザイルがいっぱい状態になってしまった。声が届かない場合の事前の確認不足。

●稜線にでてから

①ホワイトアウト状態であったため、コンテで進む。

大川さんを先頭に、ヌンチャクをかけ私が真ん中に入り、ラストは宮島さん。大川さんは後ろをみないでどんどん進み、私は遅れたり、私が進むと大川さんとの間にロープ溜まってしまい、岩角などに引っかかり動けなくなったりした。ロープが溜まってきたが束ねるように指示されるが、束ねた端からすぐ伸ばされてしまい、束ねるためには両手を使う必要があり、非常にストレスだった。宮島さんはもっとストレスだったと思う。コンテのザイルさばきがよく分かっていない、不慣れであった。

②ザックの中の必要なものをすぐに取り出せなかった。取り付きに到着した時点でGPSをザックにしまい、稜線にでてから取り出すことができなかった。

.....

今回は、体力不足、技術不足の中で同行者に大きなリスクを背負わせてしまったことについて反省しています。

悪天候が予想される中で判断が甘かったと思います。初めてのルートで時間の読みが非常に甘かったです。今後は体力、技術ともにもっと向上させなければと思います。

ありがとうございました。

(西)